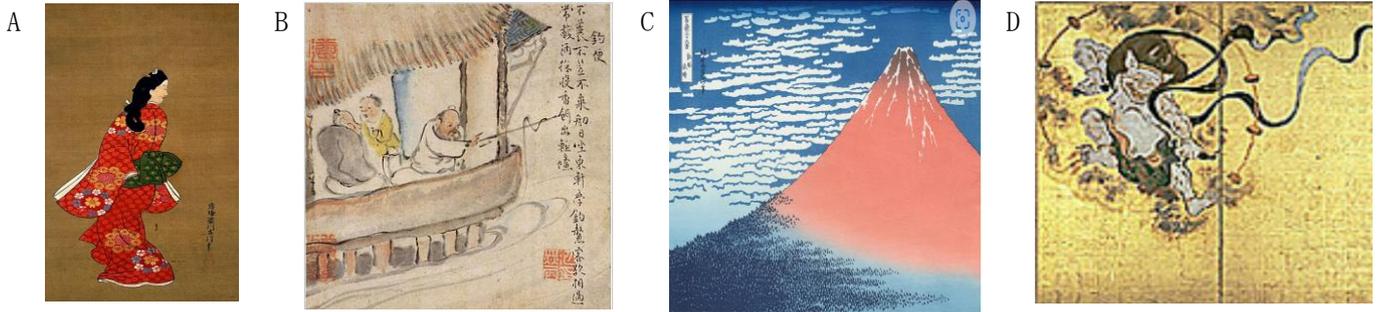


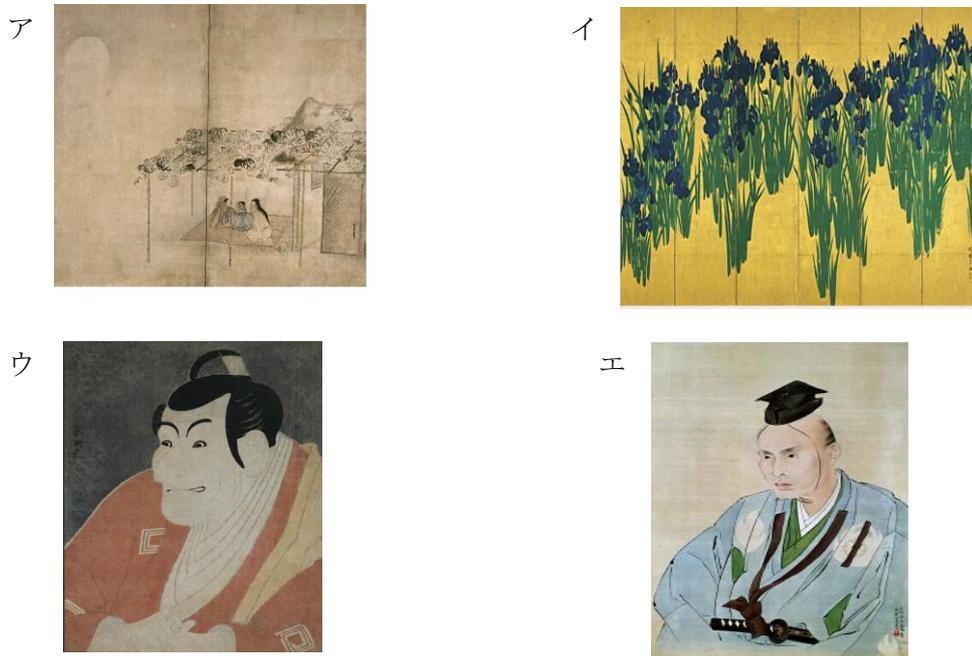
【 1 】 次の写真を見て問いに答えよ。



問1 写真A～Dを描いた人物を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 俵屋宗達      イ. 菱川師宣      ウ. 池大雅      エ. 葛飾北斎

問2 上の写真A～Dと同じ時期のものを次から選び、記号で答えよ。



問3 上の写真A～Dと同じ時期の人物を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 歌川広重      イ. 円山応挙      ウ. 野々村仁清      エ. 本阿弥光悦

問4 上の写真A～Dと同じ時期の文学を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 洒落本      イ. 浮世草子      ウ. 仮名草子      エ. 滑稽本

問5 上の写真A～Dと同じ時期の俳諧者を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 小林一茶      イ. 松尾芭蕉      ウ. 松永貞徳      エ. 与謝蕪村



問5 次の文は系統図中の  ～  の人物に関する説明である。それぞれの人物名を記せ。

- A 藤原惺窩に師事し、彼の推薦で徳川家康に仕え、二代将軍秀忠、三代将軍家光、四代将軍家綱の四人の侍講となる。
- B 江戸中期の儒学者。六代将軍家宣、七代将軍家継に仕え、政治顧問として活躍した。また学者としても名高く、著書に『西洋紀聞』、『読史余論』などがある。
- C 岡山藩主池田光政に仕え、藩政を指導した。中江藤樹に学び、現実政治に活用できる学問をめざす。『大学或問』で社会を批判したため、幕府にとがめられ、下総古河に幽閉された。
- D 江戸後期の蘭医。若狭小浜藩医。江戸の小塚原での死刑囚の解剖の見聞経験により、『解体新書』を前野良沢らと訳述する。その回顧録が『蘭学事始』である。
- E 三河田原藩の江戸詰家老。高野長英らと尚歯会を組織した。モリソン号事件を批判したため、蛮社の獄で処罰されたのちに自殺した。著書に『慎機論』がある。

【 3 】 次の史料の各文がのっている書名とその著者名をそれぞれ語群より 1 つ選び、記号で答えよ。

1. 「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり。・・・予もいづれの年よりか片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず。・・・」

書名 ①『山家集』      ②『おらが春』      ③『去来抄』      ④『奥の細道』  
人物 ア. 西行      イ. 一茶      ウ. 蕪村      エ. 芭蕉

2. 「総じて北浜の米市は、日本第一の津なればこそ、一刻の間に、五万貫目のたてり商も有事なり。その米は、蔵々にやまをかさね、(略)・・・諸国をめぐりけるに、今もまだ、かせいで見るべき所は大阪、北浜、流れありく銀かねもありといへり。・・・」

書名 ①『日本永代蔵』      ②『浮世風呂』      ③『経済録』      ④『曾根崎心中』  
人物 ア. 井原西鶴      イ. 式亭三馬      ウ. 太宰春台      エ. 近松門左衛門

3. 「当世の俗習にて、異国船の入津は長崎に限りたる事にて、別の浦之船を寄ル事ハ決して成らざる事ト思へり。実に太平に鼓腹する人ト云べし。・・・細こまカに思へば江戸の日本橋より唐・阿蘭陀迄境なしの水路也。・・・」

書名 ①『経世秘策』      ②『海国兵談』      ③『経済録』      ④『華夷通商考』  
人物 ア. 本多利明      イ. 林 子平      ウ. 高橋景保      エ. 西川如見

4. 「日本ハ海国ナレバ、渡海運送交易ハ固もとより国君ノ天職第一ノ国務ナレバ、万国へ船舶ヲ遣リテ、国用ノ要用タル産物及ビ金銀銅ヲ抜き取テ日本へ入レ、国力ヲ厚クスベキハ海国具足ノ仕方ナリ。・・・」

書名 ①『経世秘策』      ②『海国兵談』      ③『経済録』      ④『赤蝦夷風説考』  
人物 ア. 本多利明      イ. 林 子平      ウ. 工藤平助      エ. 太宰春台

5. 「各耕シテ子ヲ育テ、子壯ニナリ、能ク耕シテ親ヲ養ヒ子ヲ育テ、一人之ヲ為レバ万々人之ヲ為テ、食り取ル者無レバ食ラルル者モ無ク、轉定モ人倫モ別ツコト無ク、轉定生ズレバ、人倫耕シ、此ノ外一点ノ私事無シ。是レ自然ノ世ノ有様ナリ。・・・」

書名 ①『農政本論』      ②『蘭学事始』      ③『自然真営道』      ④『玉くしげ』  
人物 ア. 佐藤信淵      イ. 杉田玄白      ウ. 安藤昌益      エ. 本居宣長

6. 「本朝天下の大勢、九変して武家の代となり、武家の代また五変して当代におよぶ相論の事。・・・」

書名 ①『農政本論』      ②『宇下人言』      ③『読史余論』      ④『玉くしげ』  
人物 ア. 佐藤信淵      イ. 松平定信      ウ. 新井白石      エ. 本居宣長

7. 「今ノ世ノ諸侯ハ大モ小モ皆首ヲタレテ町人ニ無心ヲイヒ、江戸・京都・大坂其外、処々ノ富商ヲ憑たのんデ、其続ケ計ぼかりニテ世ヲ渡ル。(中略)諸侯スラ然ルナリ。況ヤ、薄禄ノ士大夫ヲヤ。風俗ノ敗レ、悲シムニ余レリ。・・・」

書名 ①『経済録』      ②『経済要録』      ③『農業全書』      ④『大学或問』  
人物 ア. 太宰春台      イ. 佐藤信淵      ウ. 宮崎安貞      エ. 熊沢蕃山

8. 「先づ彼のターヘル・アナトミアの書にうち向ひしに、誠に臚舵なき船の大海に乗りだせしが如く、茫洋として寄るべきなく、只あきれにあきれて居たる迄なり。・・・」

書名 ①『臚志』 ②『蘭学事始』 ③『ハルマ和解』 ④『蘭学階梯』

人物 ア. 山脇東洋 イ. 杉田玄白 ウ. 稲村三伯 エ. 大槻玄沢

9. 「土農工商ハ天下ノ治ル相トナル。四民カケテハ助ケ無カルベシ。(中略)天下万民産業ナクシテ、何ヲ以テ立ツベキヤ。商人ノ買利モ天下御免シノ禄ナリ。」

書名 ①『群書類従』 ②『古事記伝』 ③『都鄙問答』 ④『政談』

人物 ア. 塙保己一 イ. 本居宣長 ウ. 石田梅岩 エ. 荻生徂徠

10. 「本ヨリナキ物タルコトココニ知ルベシ。・・・コレヲ以テミレバ、其鬼神ト云モノナキヲシルベシ。・・・」

書名 ①『慎機論』 ②『稽古談』 ③『都鄙問答』 ④『夢ノ代』

人物 ア. 渡辺崋山 イ. 海保青陵 ウ. 石田梅岩 エ. 山片蟠桃

【 4 】 次の史料1～10を読んで問いに答えよ。

1. はせを翁<sup>おう</sup>ぼちゃんといふと立留<sup>とまり</sup>り
2. 役人の子ハにぎにぎを能<sup>よ</sup>く寛<sup>おぼえ</sup>
3. 世の中に蚊ほどうるさきものはなし ぶんぶといふて夜るもねられず
4. 金とりて田沼る身のにくさゆへ 命捨てもさのミおしまん
5. 白河の岸打波に引換て 浜松風の音の烈しさ
6. どこまでもかゆき所にゆきとどく 徳ある君の孫の手なれば
7. 浅間しや富士より高き米相場 火のふる江戸に砂の降とハ
8. 水引きて十里四方はもとの土
9. 旗本に今ぞ淋<sup>さび</sup>しさまさりけり 御金もとらで暮すと思へば
10. 上げ米といへ上米<sup>あげまい</sup>は気に入らず 金納<sup>べい</sup>ならばしじうくろふぞ

問1 史料1・2を川柳という。この川柳を集めたものを何というか、次から選び、記号で答えよ。

- ア. 誹風柳多留 イ. 無名草子 ウ. 俳諧七部集 エ. 花月草紙

問2 川柳の始祖で、問1の初編を刊行した人物を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 与謝蕪村 イ. 松尾芭蕉 ウ. 柄井川柳 エ. 井原西鶴

問3 史料1はだれのことをいっているのか、その人物を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 与謝蕪村 イ. 松尾芭蕉 ウ. 小林一茶 エ. 良寛

問4 史料3・4・8・9で松平定信のことを詠<sup>よ</sup>んでいるのはどれか。次から選び、記号で答えよ。

- ア. 3 イ. 4 ウ. 8 エ. 9

問5 史料4・5・6・9で田沼意次のことを詠<sup>よ</sup>んでいるのはどれか。次から選び、記号で答えよ。

- ア. 4 イ. 5 ウ. 6 エ. 9

問6 史料4・5・6・9で水野忠邦のことを詠<sup>よ</sup>んでいるのはどれか。次から選び、記号で答えよ。

- ア. 4 イ. 5 ウ. 6 エ. 9

問7 史料6の「徳ある君」とはだれのことか。あてはまる人物を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 徳川家康 イ. 徳川家光 ウ. 徳川綱吉 エ. 徳川吉宗

問8 史料7と関係のある飢饉を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 享保 イ. 寛政 ウ. 天明 エ. 天保

問9 史料8で詠まれている政策を出した人物が行った政策を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 閑院宮家の創設 イ. 足高の制 ウ. 囲米の制 エ. 株仲間の解散

問10 史料10で詠まれている「上米」の制を出した人物が行った政策を次から選び、記号で答えよ。

- ア. 相对済し令 イ. 印旛沼の干拓 ウ. 人返し令 エ. 旧里帰農令

【 5 】 次の A～J の文章を読み、ア・イのうちアだけが正しければ①をマークせよ。また、イだけが正しければ②を、ア・イとも正しければ③を、ア・イとも誤っている場合は④をマークせよ。

- A ア. 江戸時代初期の建築では日光東照宮をはじめ霊廟建築が流行し、神社建築には権現造が広く用いられた。  
イ. 江戸時代初期の建築には、書院造に草庵風の茶室を取り入れた数寄屋造が工夫され、京都の桂離宮の書院はその代表である。
- B ア. 障壁画に大和絵の伝統を生かした狩野探幽は、土佐派の画法をもとに、装飾画に新様式を生み出した。  
イ. 寛政期の文化を担った芸術家の一人に本阿弥光悦がいる。彼の作品の一つに舟橋蒔絵硯箱がある。
- C ア. 肥前有田では磁器がつくられ、野々村仁清は、上絵付の技法で赤絵を完成させた。  
イ. 元禄期には、京都に酒井田柿右衛門が出て、上絵付をもとに色絵を完成して京焼の祖となった。
- D ア. 大和絵系統の土佐派からわかれた住吉如慶は、幕府の御用絵師となって活躍した。  
イ. 尾形光琳は、俵屋宗達の装飾的な画法を取り入れて琳派をおこした。
- E ア. 狩野永徳は、桃山時代の豪壮大画様式を優美な様式に変化させた。彼の作品には『大徳寺方丈襖絵』などがある。  
イ. 久隅守景は、『夕顔棚納涼図屏風』に代表される庶民的な画題や風雅な作品に特色がある。
- F ア. 17世紀末に鈴木春信によって創始された浮世絵は、絵本や挿絵として描かれた。  
イ. 18世紀半ばに菱川師宣が一枚刷りの多色浮世絵版画（錦絵）として完成させた。
- G ア. 喜多川歌麿は、美人大首絵の新様式を開拓し、作品には『寛政三美人』などがある。  
イ. 個性豊かに役者絵・相撲絵を描いた河竹黙阿弥は、大首絵の手法を駆使して『市川鯉蔵』などの作品を描いた。
- H ア. 丸山応挙は、平面に距離感を描き出す西洋画の遠近法を取り入れ、立体感のある写生画を想像した。  
イ. 亜欧堂田善は、明・清の南画を学び、与謝蕪村と合作の『十便十宜図』などの作品を描いた。
- I ア. 司馬江漢は、平賀源内に蘭学を学び、のちに洋画に傾倒して和洋折衷の画風を立てて、日本で最初に銅版画をはじめた。  
イ. 渡辺華山は、三河田原藩の家老で谷文晁に絵画を学んだ。作品として『鷹見泉石像』などを残している。

- J ア. 歌川広重は、狩野派・洋画など各種の画法を習得して独自の画風を開いた。風景画の『富嶽三十六景』などは、ヨーロッパ後期印象派の画家に影響を与えた。
- イ. 葛飾北斎は、風景版画の大成者の一人で、東海道の宿場の風景と風俗の版画『東海道五十三次』を刊行して有名になった。

一

- 解答問1 A ( イ )    B ( ウ )    C ( エ )    D ( ア )  
 問2 A ( イ )    B ( ウ )    C ( エ )    D ( ア )  
 問3 A ( ウ )    B ( イ )    C ( ア )    D ( エ )  
 問4 A ( イ )    B ( ア )    C ( エ )    D ( ウ )  
 問5 A ( イ )    B ( エ )    C ( ア )    D ( ウ )

各 1点 合計20点

二

- 解答問1 I ( エ )    II ( イ )    III ( ア )    IV ( オ )    V ( ウ )  
 問2 ① ( オ )    ② ( イ )    ③ ( ア )    ④ ( ウ )    ⑤ ( カ )  
       ⑥ ( エ )  
 問3 a ( ウ )    b ( オ )    c ( エ )    d ( イ )    e ( ア )  
       f ( キ )    g ( カ )    h ( ク )  
 問4 ⑦ ( ウ )    ⑧ ( エ )    ⑨ ( イ )    ⑩ ( オ )    ⑪ ( ア )  
 問5 A 林 羅山    B 新井白石    C 熊沢蕃山    D 杉田玄白  
       E 渡辺崋山

問1～問4は各1点、問5は各2点 合計 34点

三

解答

	1	2	3	4	5
書 名	④	①	②	①	③
人 物	エ	ア	イ	ア	ウ
	6	7	8	9	10
人 物	③	①	②	③	④
書 名	ウ	ア	イ	ウ	エ

それぞれ各2点 合計40点

四

- 解答 1 ( ア )    2 ( ウ )    3 ( イ )    4 ( ア )    5 ( ア )  
 6 ( イ )    7 ( エ )    8 ( ウ )    9 ( エ )    10 ( ア )  
 各2点 合計20点

五

- 解答A ( ③ )    B ( ② )    C ( ④ )    D ( ③ )    E ( ② )  
 F ( ④ )    G ( ① )    H ( ① )    I ( ③ )    J ( ④ )  
 各2点 合計20点